

平成 22 年
7 月 27 日

病害虫発生予報 8 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう
平成 22 年度農薬危害防止運動実施中です (6/15 ~ 9/14)

< 目 次 >

. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水稲：いもち病(穂いもち), 斑点米カメムシ類	1
水稲：イネツトムシ, ニカメイガ	2
ダイズ：チョウ目幼虫	2
サツマイモ：チョウ目幼虫(ナカジロシタバ等)	3
ナシ：ナシヒメシンクイ	3
ナシ：ハマキムシ類	4
果樹共通：カメムシ類(第一世代(新世代)成虫)	4
共通害虫：オオタバコガ	5

【その他の病害虫】

水稲, ダイズ, ナシ, ブドウ, カキ, クリ, 抑制トマト, 秋冬ネギ, 夏秋ナス, 共通害虫

. 病害虫ミニ情報

サツマイモのナカジロシタバの発生生態と防除対策について	7
-----------------------------	---

. 今月の気象予報

. テレホンサービス

本文に記載された農薬の登録内容は, 平成 22 年 7 月 21 日現在のものです。

最新の農薬登録内容は, (独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報検索システム」(<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vt11m000.html>) で確認することができます。

水田において農薬を使用するときは, 農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに, 止水期間を 1 週間程度とすること。

詳しくは, 病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel : 029-227-2445

予報内容は, ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1．いもち病（穂いもち）

【予報内容】

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	少ない	県下全域

【予報の根拠】

7月下旬現在，葉いもちの発病度は平年より低い。

7月下旬現在，水稻の生育は平年よりやや早い。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高く，降水量は平年並と予想され，特に発生を助長する条件ではない。

【防除上注意すべき事項】

いもち病菌がイネの穂に侵入しやすいのは，出穂直後から出穂後14日位までである。この期間に降雨が続く場合は，発生に注意が必要である。

穂いもちを対象とした薬剤防除の適期は，穂ばらみ末期～穂揃期である。上位葉に病斑が進展している水田では，防除を徹底する。

2．斑点米カメムシ類

【予報内容】

発生時期	発生量	発生地域
早い	やや多い	県下全域

【予報の根拠】

7月下旬現在，水田内における発生量は平年よりやや多く，水田周辺のイネ科雑草における発生量は平年並である。

気温の積算状況から推定した本年のクモヘリカメムシの産卵時期は，平年より早い。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。

【防除上注意すべき事項】

斑点米カメムシ類の成虫を対象とした防除適期は，穂揃期である。穂揃期に多数の成虫を確認した場合は，防除を実施する。

斑点米カメムシ類の幼虫を対象とした防除適期は，出穂10～15日後頃である。クモヘリカメムシ幼虫の本年の防除適期は，県南・県西地域で8月1～5日頃，県北・県央・鹿行地域で8月11～15日頃と予測される。

周辺よりも出穂の早い水田，ヒエ等の雑草が多発している水田では，成虫の飛来が集中しやすい。また，出穂の遅い水田では，周辺の水田等で増殖した新成虫が侵入することがあるので，発生には十分注意する。陸稲においても，水稻と同様に発生に注意する。

成虫及び若齢幼虫が主体の場合は，残効の長い薬剤を用いる。防除の際には，収穫前日数等の農薬使用基準に十分注意する。

(水稻 続き)

3 . イネツトムシ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
やや早い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在，本虫のツト数は平年よりやや多い。

[防除上注意すべき事項]

飼料用稲等の周辺に比べて田植えが遅い水田や葉色が濃い水田では，産卵が集中するので，発生に特に注意する。

7月末～8月初めに水田を観察し，発生が多い場合には，幼虫が小さいうち（葉先が巻かれ始めた時期）に薬剤防除を実施する。

上位葉が食害されると，収量・品質の低下を招く。また，葉をつづり合わせてツト（巣）を作り，出穂を妨げることがあるので，防除は遅れないようにする。

4 . ニカメイガ

[現在の状況]

7月下旬現在，第一世代幼虫による被害株率が高い圃場が見られる。

フェロモントラップ（水戸市）における越冬世代成虫の誘殺数は平年より多い。

[防除上注意すべき事項]

本虫の発生は，近年，局地的に増加している。第一世代幼虫による被害が多い圃場では，薬剤防除を8月上旬～中旬に実施する。防除の際には，収穫前日数等の農薬使用基準に十分注意する。

ダイズ

1 . チョウ目幼虫

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在，寄生虫数及び発生地点率は平年より高い。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

老齢幼虫になると，薬剤が効きにくくなるため，圃場をよく見回り，若齢幼虫のうちに防除を行う。

薬剤散布の際は，葉裏や株元にも薬剤がかかるように丁寧に行う。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるために，同一系統の薬剤は連用しない。

サツマイモ

1. チョウ目幼虫（ナカジロシタバ等）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在，被害葉率及び発生地点率は平年よりやや高い。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

ナカジロシタバは，第三世代幼虫の被害が最も大きい。ナカジロシタバ第三世代幼虫の発生は，9月上旬頃からと予想される。老齢幼虫になると防除効果が劣るので，若齢～中齢幼虫の時期（丸く穴の開いた葉が散見される時期～葉面積の25%程度を食害された葉が目立つ時期）の防除に努める。

薬剤散布の際は，幼虫が生息する葉裏までよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。

（P.7 病害虫ミニ情報 参照）

ナシ

1. ナシヒメシンクイ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在，被害果率は平年並～やや高い。

7月下旬現在，第二世代成虫のフェロモントラップへの誘殺数は笠間市及び土浦市で平年より多い。

[防除上注意すべき事項]

被害果を見つけた場合は，土中深く埋めるなど速やかに処分して，次世代による被害を防ぐ。薬剤防除は，次世代幼虫（第三世代）の発生初期にあたる8月中旬に実施する。

早生品種（「幸水」など）で被害果が目立った場合は，晩生品種（「豊水」など）を対象に薬剤散布を行う。

薬剤散布を行う場合は，収穫前日数に十分注意する。

薬剤散布は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部など，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

(ナシ 続き)

2. ハマキムシ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在，被害果は認めず平年並であるが，一部で葉にわずかに発生を認めている。
7月下旬現在，チャハマキ成虫の誘殺数は，果樹園内に設置した予察灯（かすみがうら市）では平年よりやや多く，フェロモントラップ（笠間市）では平年並である。

[防除上注意すべき事項]

徒長枝の多い圃場では，発生が多くなりやすいため，丁寧に薬剤散布を行う。
薬剤散布は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部など，薬液のかけにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

果樹共通

1. カメムシ類（第一世代（新世代）成虫）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在，被害果は認めず平年並である。
7月下旬現在，果樹園内に設置した予察灯（かすみがうら市）へのチャバネアオカメムシ成虫の誘殺数は平年並であるが，クサギカメムシ成虫の誘殺数は平年より多い。
7月下旬現在，主要な餌場及び繁殖場所であるヒノキ林におけるカメムシ類の発生は平年より少ない。

[防除上注意すべき事項]

夜温が高いと活動が盛んになり，果樹園へ飛来するので，このような場合は発生に注意する。
園内をよく観察し，カメムシ類の飛来を確認したら，活動が鈍い早朝に薬剤散布を行う。
特に，果実肥大をするカキやリンゴでは，飛来する恐れがあるので注意する。

共通害虫

1. オオタバコガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在，フェロモントラップ（龍ヶ崎市等6か所）への誘殺数は平年並～やや多い。

7月下旬現在，ナスで幼虫の発生を確認している。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

圃場をよく観察し，幼虫の早期発見に努める。齢期が進むにしたがって薬剤の効果は低くなり，中齢幼虫になると果実や結球内に食入するため，食入前の若齢幼虫のうちに防除を徹底する。

薬剤散布は，葉裏や株元にも薬液がかかるように丁寧に行う。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるために，同一系統の薬剤は連用しない。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
水稲	紋枯病	発生量：平年並	7月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。向こう1か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。
	縞葉枯病	発生量： -	7月下旬現在，発生は認められない。本病を媒介するヒメトビウンカの水田における発生量は平年よりやや多い。
	セジロウンカ	発生量：多い	7月下旬現在，水田における発生量は平年より多い。
ダイズ	紫斑病	発生量： -	防除適期は開花期の20日後頃である。開花期以降から成熟期までに連続した降雨があると，発生が多くなるので注意する。
	カメムシ類	発生量：やや多い	7月下旬現在，平年並の発生である。予察灯(水戸市)への誘殺数は，平年よりやや多い。
ナス	黒星病	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在，平年並～やや多い発生である。発病している果実及び葉は，見つけ次第取り除き，土中深く埋める。
	ハダニ類	発生量：平年並	7月下旬現在，平年並の発生である。

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
ブドウ	べと病	発生量：やや多い	7月下旬現在，葉への発生は平年より多い。特に露地圃場の発生が目立つ。気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高く，本病の発生を助長する条件ではない。多発園では，袋かけ後の防除を徹底する。
	褐斑病	発生量：平年並	7月下旬現在，平年並の発生である。
カキ	炭疽病	発生量：平年並	7月下旬現在，平年並の発生である。
	カキノヘタムシガ	発生量：平年並	7月下旬現在，平年並の発生である。
クリ	モモノゴマダラノメイガ	発生量：平年並	7月下旬現在，平年並の発生である。予察灯（かすみがうら市）への誘殺数は，平年並である。
抑制トマト	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在，平年並～やや多い発生である。黄化えそウイルス(TSWV)を媒介するので注意する。
秋冬ネギ	ネギハモグリバエ	発生量：やや多い	7月下旬現在，夏ネギにおいて平年よりやや多い発生である。
	ネギアザミウマ	発生量：やや多い	7月下旬現在，夏ネギにおいて平年よりやや多い発生である。
夏秋ナス	ミカンキイロアザミウマ	発生量：やや多い	7月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
共通害虫	ハスモンヨトウ	発生量：平年並	7月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺数は平年並である。

サツマイモのナカジロシタバの発生生態と防除対策について

ナカジロシタバは、多発生するとサツマイモの葉の大部分を食害してしまいます。早期から発生するとサツマイモの収量や品質の低下につながることもあるので注意が必要です。また、サツマイモの葉を食い尽くした後、餌を求めて移動する際に民家等に侵入し、不快害虫として問題になることもあります。

本年は、7月下旬現在、平年よりやや多い発生となっています。ナカジロシタバの発生生態や防除対策について下記に示しますので、今後の対策の参考にして下さい。

1. 発生生態と被害

ナカジロシタバは年3回発生し、9月上旬頃から発生する第三世代幼虫の発生量が最も多く、被害も9月下旬～10月にかけて多くなります(図1)。成虫は夜間に飛び回り、葉の裏に卵を産み付けます。孵化した若齢幼虫は、つる先の若い葉を好んで食害します。中～老齢幼虫になると、昼間は茎葉の陰などにひそみ、夜間に活動して多量の葉を食害するようになります。成熟した幼虫は土中に潜ってマユを作り、その中で蛹になります。

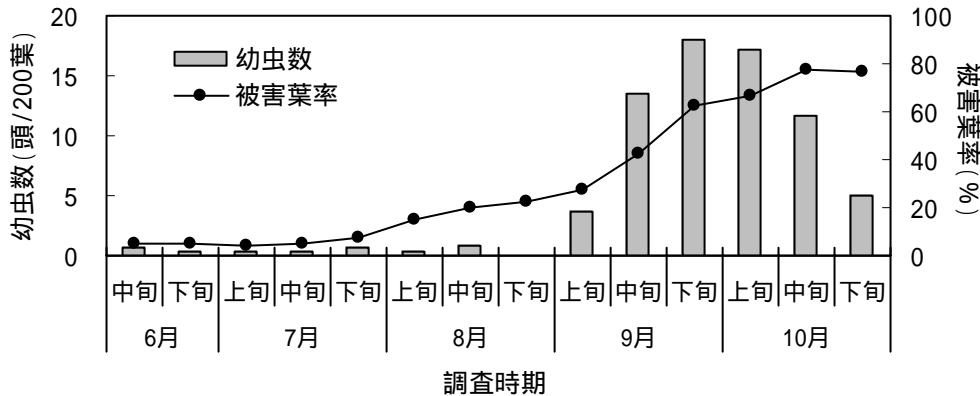


図1 サツマイモにおけるナカジロシタバ幼虫数と食葉性害虫の被害率の推移 (農業総合センター農業研究所県予察圃(水戸市)の過去10年間の平均値)

注): 食葉性害虫の主要種はナカジロシタバで、食害葉も本種によるものが大部分であると考えられる。

2. 防除対策

8月下旬～9月中旬に圃場をよく観察し、第三世代幼虫の若齢～中齢の時期(丸く穴の開いた葉が散見される時期～葉面積の25%程度を食害された葉が目立つ時期)に、薬剤散布を行います。その際、幼虫が生息する葉裏まで薬剤がかかるよう丁寧に散布して下さい。

薬剤に対する抵抗性は現在のところ認められていないので、表1に示す薬剤を適期に散布することで、十分な効果が期待できます。なお、IGR剤(ノーモルト乳剤、マッチ乳剤)は、他系統薬剤に比べ殺虫効果の発現に時間がかかりますので、早めに散布するようにして下さい。

表1 サツマイモのナカジロシタバに登録のある主な薬剤(平成22年7月21日現在)

系統名	薬剤名	希釈倍数(倍)	収穫前日数 - 剤の使用回数	有効成分 - 有効成分の総使用回数
有機リン系剤	ディブテックス乳剤	700～1,000	14 - 4	DEP - 4
カーバメート系剤	オリオン水和剤40	1,000	前日 - 5	アラニカルブ - 5
	ラービフロアブル	750～1,000	3 - 3	チオジカルブ - 3
合成ピレスロイド系剤	トレボン乳剤	1,000	7 - 3	エトフェンブロックス - 3
IGR剤	ノーモルト乳剤	1,000	7 - 2	テフルベンズロン - 2
	マッチ乳剤	2,000～3,000	14 - 2	ルフェヌロン - 2
その他	トルネードフロアブル	2,000	7 - 2	インドキサカルブMP - 2

農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項等を確認のうえ使用して下さい。また、周辺作物等へ飛散(ドリフト)しないよう十分注意して散布して下さい。

・ 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 7月24日から8月23日)

気象庁 (7月23日 発表)

< 特に注意を要する事項 >

期間の前半は気温が高く、かなり高い日もある見込みです。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	10	30	60
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

< 1週目の予報 > 7月24日(土曜日)から7月30日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 60%

< 2週目の予報 > 7月31日(土曜日)から8月6日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 50%

< 3週目から4週目の予報 > 8月7日(土曜日)から8月20日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 40%

・ テレホンサービス

7月31日をもってテレホンサービスは終了いたします。病虫害の発生予想、防除対策等についてご質問がありましたら、病虫害防除所まで直接お電話して頂きますようよろしくお願いいたします。

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。